

1中校区の小中一貫校 より良い教育環境を

子ども達のために、今大人が果たすべき責任とは？

1中校区の小中一貫校について、住民投票の実施を求める市民の請求は6月議会で否決されましたが、問題は残されたままです。【日本共産党の一般質問より】



大きすぎる学校規模！ 適正規模の議論ナシ

国は、施設一体型小中一貫校（義務教育学校）の標準規模を18学級以上27学級以下と定めています。しかし、1中校区の小中一貫校は、1100人・34学級と、国の標準規模を7クラスもオーバーする大規模校になります。

交野市は昨年8月に「1中校区の施設一体型小中一貫校は義務教育学校にする」としたにも関わらず、その適正規模を議論もせず「小学校適正規模（12～24学級以下）と、中学校の適正規模（9～18学級以下、24学級まで許容）を合わせた規模を準用する」としました。

この場合、小中あわせて最大48学級まで許容することになります。市は、「今後、1中校区以外で施設一体型小中一貫校等が議論される際には、その適正規模の考え方を示しておく必要がある」と答弁しました。本来は1中校区でも、施設一体型小中一貫校（義務教育学校）の適正規模を検討しておく必要があったはずですが、こんないい加減で、検討すべきことも検討されずに、過大な学校をつくっていいはずがありません！！

最新の実証的検証の結果は・・・

「小中の施設一体型」×「大規模校」は“最悪のパターン”

市は、小学生と中学生が同じ施設で学ぶことで、切れ目のない小中一貫教育への効果が高く、いじめや不登校などの「中一ギャップ」が解消できるとメリットを説明してきました。

しかし、小中一貫教育についての最新の実証的検証の結果で示されたのは、これまで市が述べてきたメリットとは真逆の姿です。 ※『小中一貫教育の実証的検証』（2021年発行 編著者 梅原利夫 他）より

《施設一体型小中一貫校の検証結果》

施設一体型一貫校と、施設分離型や非一貫校に通う児童生徒の9年間を比較した結果、『施設一体型の方が、学校適応感が低い傾向にあり、疲労感が強く、自信や目標に挑戦する姿勢が弱い。学業や対人関係、運動や自己価値などの面で、自分の有能さを感じにくい。自分のやりたいことや意見を明確に示すことが少ない。』

《学校の規模が及ぼす影響》

施設一体型における学校規模が、小規模から中規模、そして大規模（1000人以上）へと拡大していくほど、学校適応感が低下する。学校適応感の強さと、学校規模は依存関係にある。

※学校適応感・・・学校が楽しい、学校に行きたいと感じる気持ちのこと

日本共産党の提案



★まず、このコロナ禍での経験や学術的検証結果を踏まえ、子ども達が豊かに成長できる教育環境や学校規模はどうあるべきなのか？学校の適正規模について再検討し直すこと。

★9年間の固定化による発達上のマイナス影響を避け、活動場所の確保のためにも、小学校と中学校を分離し、別々に整備することが必要です。

第一中学校の跡地は売却！？長宝寺小学校は転用！？

市は、3校が統廃合された後、1中や長宝寺小の跡地利用は「まだ何も検討されていない」としてきました。

しかし、6月議会で「市が1中の土地は売却し、長宝寺小は転用するという書類を総務省に提出している」ことが明らかになりました。

住民無視も甚だしい市政運営です。1中は、災害時の市民の指定避難所です。身近な避難所の必要性が高まる今、地域住民の意見も全く聞かずに、国に売却の計画を出すとはとんでもないことです！

小中一貫校問題に取り組んで・・・日本共産党議員団 これからも みなさんと力あわせて がんばります

藤田 まり

施設一体型小中一貫校について知れば知るほど、子ども達に生きづらさを押しつける事に繋がると気付かされました。その事実を蓋をするのか？しないのか？将来、子どもから「何であの時、大人たちは何もしてくれなかったの？」と言われないように、今果たせる出来る限りの力を尽くそうと考え、行動して来ました。今は、「まだ、終われない。」そんな気持ちです。

さらがい りみ

2人の息子の子育ての実感として、中学生にはあふれるエネルギーを発揮できる場所と仲間を、小学生には1人1人の「できた」「分かった」を丁寧に支える学校を願ってきました。大人数の小・中学生と一緒に詰め込む一貫校では、それができません。3中校区でも小中一貫校などが検討されています。ひきつづき、みなさんと声をあげていきます。

北尾 まなぶ

1中校区のお母さんたちから「通学距離が遠くなり安全に通えるのか不安」「市民が自分たちで考え判断して決める住民投票を実現してほしい」などのいろんな声を聞いてきました。否決され残念でありませんが、引きつづき市民の声を届け、市政に反映されるように、頑張ります。

